

## 令和3年度 放課後子ども総合プラン指導者等研修会（講座C） 報告

- 開催期日：令和3年11月25日（木）
- 開催場所：西三河総合庁舎
- 参加人数：会場参加者8名、オンライン参加者235名

### <行政説明>

テーマ：「放課後子ども教室と放課後児童クラブの違い」

講師：愛知県教育委員会生涯学習課

本研修会は、「新・放課後子ども総合プラン」に基づいて行っています。新・放課後子ども総合プランとは、「全ての小学校区で、両事業（放課後子ども教室と放課後児童クラブ）を一体的に又は連携して実施し、うち小学校内で一体型として1万箇所以上で実施することを目指す」こと等を目指した国の指針です。

行政説明では、「新・放課後子ども総合プラン」の趣旨を御理解いただくため、「放課後子ども教室と放課後児童クラブの違い」をテーマにして説明しました。両事業は、対象、運営者、活動内容、ねらいがそれぞれ異なります。それぞれの役割の違いを踏まえつつ、両事業の関係者が連携・協力して、「全ての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるようにする」体制づくりが求められていることを説明しました。

### <講演>

演題：「子供の発達課題に対応し、

信頼関係を築く教育カウンセリング技法」

講師：愛知大学 非常勤講師 山下 和美 氏



山下先生は、長年、養護教諭として小中学校に勤務されておりました。講義の冒頭では、初任者の頃、「子供に寄り添わなければいけない」と努めているのに、“保健室崩壊”と思うような状態になった時の思い出について話されました。その中で、山下先生は、「自分の考えに軸がなかった。保健室は安全で安心できる場であるという本質が揺らいでいた。子供に公平に接するとはどういうことかを考え直し、これを機会に教育カウンセリングの勉強を始めた。

」というお話がありました。

講義の中盤では、教育カウンセリングとは、「育てる」を目標とした心理学であるとし、構成的エンカウンターやアドラー心理学についての説明がありました。そして、「勇気づけとほめることの違い」、「IメッセージとYouメッセージ」、「10代の脳」、「9歳の壁」についての解説がなされました。また、ギャングエイジの対応について、「集団で活動することのよさを味わわせる」、「子供の夢や要求を生かす」、「言葉を使わせる」、「ルールとリレーションを確立する」と、指導のポイントについて教示されました。

講義の後半では、「子供とかかわるための演習」として、「こころスケール」や「〇〇でビンゴ」の紹介や、「挨拶や返事が返ってこない子供に、どう声をかけるとよいか」といった具体的場面での働きかけについて説明がなされました。そして、子供の言葉を、「きちんと聞ける」ことが指導者に必要な資質であり、「信頼できる他者の存在」が子供の成長を支えるとのお話がありました。

### <参加者の声>

- 山下先生の実体験を交えた講話が、私自身の学びと内省につながるものだった。子供たちにとって、私も「信頼できる他者」の一人になれることを目指していきたいと強く感じた。
- 山下先生が子供に対しての言葉かけで、このような言い方をすると話されたことが、私が普段話していることと似ているところが多く、自分が肯定されたような気持ちになった。
- 山下先生が、目の前の子供の問題行動にとらわれず、話を聴くこと、ずっと見守ることの大切さについて実践して見えたことが、心に深く留まった。
- 子供が自分で問題解決ができるように導いてゆくことがとても大事だと改めて考えた。